

事業所名： グループホームふじの里（ふじ棟）

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0391500154		
法人名	株式会社 江陽		
事業所名	グループホームふじの里（ふじ棟）		
所在地	〒023-1762 岩手県奥州市江刺藤里字平37番地2		
自己評価作成日	令和7年10月9日	評価結果市町村受理日	令和8年4月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様とご家族様の安心を第一に、利用者様のご自宅での生活に沿った支援をできるように心がけている。近隣には、種山や阿原山などの景勝地もあり、天気の良い日にはドライブなどをして気分転換をしている。月1回ではあるが、利用者様と職員が話し合い献立を決め、一緒に買い物に行く「お楽しみ献立」の日を設けています。中庭に利用者様のお手伝いをいただきながら家庭菜園を作っています。人財の多様性を図るため、特定技能一号の方を2名受け入れています。昨年より、地域との連携強化の為、福祉避難所の協定を地区振興会と締結しました。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhvu
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、地区の中心地に位置し、周辺は地区活動センターや住宅があり、田畑に囲まれた自然環境の整った場所に立地している。併設サービスとは、大型入浴施設の利用や看護師の助言、指導を得るなど、相互に連携を図りながら効果的な運営が行われている。法人の定めた経営理念と10の心得のもと、年度のユニット目標を立て、職員会議等を通じて共有し利用者へ寄り添い、利用者の要望を聴きながら意向に沿ったきめ細かな介護サービスを提供している。また、運営推進会議の委員から得た感染症対策、成年後見人制度などの助言等は、運営に反映させている。さらに、職員から提案された月1回の「お楽しみ献立」での希望食の提供、移動式のベッドの導入などを具体化し、利用者の支援や施設の整備に活かしている。感染症対策で、地域住民との接触を制限しているなかであっても、文化祭への作品の展示、手縫いの雑巾の提供、子供御輿の対処など、地域との交流にも積極的に取り組んでいる。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和8年2月9日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる(参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている(参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある(参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている(参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている(参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている(参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている(参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている(参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている(参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている(参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている(参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームふじの里 (ふじ棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	正面玄関に弊社経営理念と10の心得を掲示している。また、毎年の経営計画発表かいにおいて全社員に向け理念に対する社長の思いを伝え、それに基づいた事業所スローガンと活動目標を策定し、ミーティング場面等で確認している。	法人の定めた経営理念と10の心得のほか、年度のユニット目標(ふじ棟が「チャレンジ」、やまぶき棟が「なかよくみんなで」)を立て、職員間で共有し、利用者に寄り添い、利用者の意向に沿ったきめ細かな介護サービスを提供している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している。	利用者様の面会等において、ご家族様の同意を得たうえで、近隣の方や友人との面会を実施している。	コロナ禍以降も、「地域のかなめとなる」を実現できるよう、できる限り地域とのつながりを大切にしている。市の広報は自治会から届けられている。地区や振興会から行事の連絡があり、文化祭への作品展示や江刺甚句祭りの見学、子供御輿の来所がある。事業所からも地区センターへ雑巾の提供を行うなど、地域との交流に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	入居相談を行う際、パンフレットに記載してある認知症の説明を行い、グループホームを含めた認知症介護の支援方法を説明した上でやっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	今年度より、地区消防団長様に、運営推進会議委員になっていただき、防災時避難の為に施設内の点検や、避難訓練に参加いただき、ご指導いただいている。	委員には振興会会長、区長、駐在所警察官、消防分団長、民生児童委員、利用者代表、利用者家族代表、江刺総合支所健康福祉グループ長が就いている。会議では、事業所から抱えている課題などを提示し、委員からは感染症への対応、成年後見人制度の活用などの助言や提言を受けている。また、委員の提言から災害時に必要となる大型発電機を整備中である。	

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームふじの里 (ふじ棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	身寄りのいない利用者様の成年後見制度利用にあたり、地域包括支援センター、市福祉部地域共生社会課と連携し、市長申立てにて審判開始となった。	市の支所からの情報提供はメール等でいただいている。週に2、3回出向き、要介護認定申請の手続きや生活保護受給者の諸届出への指導、助言を得ているほか、。また、成年後見を希望する利用者に対する支援も得ている。災害情報は防災ラジオから入手している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	弊社で作成した、身体拘束廃止に関する指針に基づく、身体拘束廃止委員会が中心となって、身体拘束のない介護について理解を深めるための研修を行っている。	二つのグループホームの管理者、施設長7名による委員会を年4回開催し、協議結果は職員に周知している。研修では振り返りシートを活用して身体拘束廃止の趣旨を徹底し、併せて今年度は、スピーチロックの見直しを進めている。なお、両ユニットで3名の利用者が、転倒防止のための離床センサーを使っている。玄関は防犯目的で夜間のみ施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	弊社虐待防止委員会だ中心となって、定期的に事業所研修を行っており、事業所職員は参加し学んでいる。管理者の各々ユニットの状況を定期的に確認し管理者間で共有している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	権利擁護に関する制度を学ぶため、成年後見制度のパンフレットを各ユニットへ配布し職員の理解を深める。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームふじの里 (ふじ棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居契約は、主に介護支援専門員が担当し、ホームの生活、行事等と利用料金及び入居上の確認事項を、時間をかけて説明するとともに、契約者様の意向も家訓している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族の来所時、電話連絡時などに要望や相談等を伺い対応している。また、月に1度「ふじの里だより」で利用者の家族へ笑顔の写真付おたよりを送っている。	面会時や通院の付き添いの際に家族から意見・要望を伺っている。感染症対策のため面会を土日祝日に1日4家族、各30分以内に制限しているが、家族の理解は得られており、運営への意見等は特にはない。なお、利用者の様子を記したものにスナップ写真を添えて毎月家族に届けている。	法人又は事業所の行事や利用者の生活状況を掲載した機関紙又は写真集を定期的に作成し、家族にお届けすることについて検討されることが望まれます。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	定期的にユニットミーティングを開催している。代表者も常に参加し、職員と直接交流できる場として、意見等を汲み上げあ運営に役立てている。	ユニットミーティングを2~3カ月に1回開催し、振り返りや意見交換の機会としている。また、業務上の課題が発生した場合には、アンケートを行いながら対応している。職員から提案があった「お楽しみ献立」の実施(月1回利用者アンケートを行い食べたいメニューを提供)や電動の介護ベッドの導入などが具体化されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	代表者は、職場を定期的に巡回し、管理者や職員と個別に歓談し、各々の現状をを把握し、それぞれにあわせた目標や夢を伝え、向上心をもってはたいていただける環境を作るよう努力している。		

事業所名 : グループホームふじの里 (ふじ棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	定期的に認知症介護実践者研修の受講をしておおり、今年度も2名の職員が受講している、認知症介護基礎研修も新入社員以外は全員修了している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	職員は「江刺地域連携懇話会研修会」の参加で医療・介護の関係者との交流がある。また、代表者は他ホームでの講師をしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居内定した場合、本人様と面会し、ホームにてどのように生活したいか、不安や要望を傾聴し、相手の立場になり親切かつ丁寧な説明を心掛けている。不安に思った場合いつでも相談に乗っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	何故、グループホームを利用したいのか、真のニーズをアセスメントし、現状の中で利用者様に提案できる介護サービスを提案するとともに、フ現時点でのファイナルゴールを共有し、支援していく。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームふじの里 (ふじ棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居前アセスメントを通して、利用者様のすぐに取り組む生活課題を、ケアプラン上の課題として提案し、それに合わせた支援計画をたて、職員全体で支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	利用者様と職員と一緒に作品製作・洗濯物干し・洗濯物たたみなどを行ったり、利用者様の話を傾聴。相談や困り事への対応などをして関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	電話や毎月のお便りにて、本人の生活の様子や思いを伝え、ケアに関して相談しながら気軽に話し合う事が出来るよう配慮している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご家族様やご兄弟様との面会やご自宅への外泊。ご家族様対応での病院受診。ご本人がご家族様へ電話をかけるなどで関係が途切れないよう、支援に努めている。敬老会にはご家族様にメッセージを書いていただきご本人へプレゼントした。	家族のほか知人、友人や兄弟、孫がおやつや花を持っての面会もよくあり、楽しい時間を過ごし絆を深めている。家族と一緒に外泊や墓参りをなど楽しみにしている利用者もいる。馴染みのこととの関係継続支援のため、習字の先生だった利用者を講師に事業所内で習字教室を開いている。	

事業所名 : グループホームふじの里 (ふじ棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	気の合う同士で隣席に座ってもらったり、おやつを食べたり、レクリエーションなどを通じて全員で楽しめるよう配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービス終了後も、介護サービスを継続して利用できるよう、家族・本人の意向を聞き、必要な支援を行っている。		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者様の隣に職員が座り会話し、思いや意向を傾聴し把握している。意志疎通が困難な利用者様には簡単な質問で単語や表情で思いを把握するように努めている。	言葉での意思表示が難しい利用者には、職員が隣に座り簡単な言葉をかけ、そのときの表情や仕草から思いや意向を把握している。入居時のアセスメントで得られた利用者の生活歴や好みなどは全職員で共有し、思いや意向を把握する際に役立てている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前の事前調査にて、ご自宅を訪問し、ご家族様より状況の傾聴、ご自宅での様子を実際に確認し現状を把握するように努めている。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームふじの里 (ふじ棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	実施記録にて、バイタル・食事摂取量・レクリエーション・入浴を記録し、日々の経過記録を確認し、毎月のモニタリングをもとにカンファレンスをしてケアプラン化し一人ひとりの対応と過ごし方を職員が理解し実行している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	難聴で入浴を拒否する利用者に対し、入浴ボードや、浴室環境の整備、入浴時間の同じ時間に設定するなど、本人の現状にあわせた介護計画策定し、実践している。	計画作成担当者がアセスメントを行って作成した当初の計画は、入居後1ヵ月で確定させている。居室担当者は毎月モニタリングを行い、そのうえで計画作成担当者は、職員からの情報のほか、主治医の指示やデイサービスの看護師の助言も得て、居室担当者とアセスメントを行い計画を見直している。短期は3ヵ月、長期は6ヵ月で見直しを行うこととしている。原案の段階で家族に説明し、了解を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	実施記録・業務日誌・経過記録を元にモニタリングをし、実施記録にて職員間で情報共有しながら実績・介護計画を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	外出支援の際の自費ヘルパーやシルバーカー、手すり等の福祉用具、浮腫軽減を目的とした物利用法など、利用者様の状況に合わせ支援している。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームふじの里 (ふじ棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域の文化祭に作品での参加・地域で行われる花火大会の鑑賞・お祭りの踊りの鑑賞等、楽しめる支援に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	入居時に、かかりつけ医への受診意向を確認している。当ホーム協力医以外の受診に関しては毎回情報提供書を作成し、ご家族様にお渡しし受診していただいている。	16名の利用者は、入居後にかかりつけ医を協力医に変更し、2名は従前の病院等を受診している。協力医へは、職員が同行し受診後はその結果を電話で家族に伝えている。皮膚科などの特別科や病院への通院には、家族が同伴している。協力医である歯科医師は、必要があれば訪問歯科診療にも応じている。利用者の体調に変化があった場合や傷の治療等は、併設するデイサービスの看護師に診てもらっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	訪問看護の利用は現時点ではない。医療機関等の受診の際は、介護職員が現在の生活状況をわかりやすく医師、看護職等にお伝えするようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関に緊急受診、入院した場合、情報提供書を医療機関に提示している。退院時は看護サマリーの提示を求めるとともに、退院時カンファレンスにて、スムーズにホームへ戻って来られるよう努めている。		

事業所名 : グループホームふじの里 (ふじ棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居時及び状況の変化がある場合、ご家族様に利用者様の終末期における意向を説明・確認している。最後までお願いしたいという強い希望がある場合には、協力医療機関の協力を得ながら対応する。重度化した場合、ホームでの個浴の入浴が困難になった方には、その方に合った施設への転居の話しをしている。	入居時に利用者及び家族から重度化した場合の意向を確認し、その後体調に変化があるときは、その都度、家族や主治医と相談して対応している。最近では、重度化した1名が病院に入院している。5年以上前に一度看取りを行い、それを経験した職員は5名いるが、指針や対応マニュアルはなく、看取りができる体制にはない。突然死の事例はあるが、現状では特養への住み替え又は入院となっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急時対応マニュアルに則り、変化が見られた場合は社長及び管理者へ連絡し指示を仰いでいる。緊急性がある場合は、救急へ連絡することとしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	総合訓練と夜間訓練の年2回の火災避難訓練を実施している。地域の消防団員・運営推進委員にも訓練に参加いただき地域住民の協力体制を築いている。	ハザードマップでの区域指定はなく、また、事業所は福祉避難所に指定されている。火災の総合訓練を消防署員立会いで、9月に実施し、夜間想定訓練は2月に予定している。業務継続計画の訓練は、本部で机上訓練を行ったほか、備蓄食材の調理も体験した。食材は2日分、大型発電機(軽油)を整備中である。防災用品は、地区センターで保管している。	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	難聴の方には耳元で話す。利用者様にはさん付けしている。居室のおむつ交換時・トイレ時は他者の目に入らないよう配慮する。妄想、幻視があった場合でも否定はしない。入浴拒否がある場合は日や時間、入浴方法を変えて入浴できるよう対応する。	事業所の運営方針に「利用者の人格を尊重し、常に利用者の立場に立ったサービスの提供に努める」ことを掲げている。入浴、排泄の介助での異性介助は特に問題はないが、要望があれば対応している。居室への入室は、ノック、声掛けをし、職員は氏名の呼びかけや言葉遣いに気をつけている。失禁した場合には、利用者の心情を大切に、それとなくトイレ等に誘導している。個人情報、個別にファイルして保管している。	
----	------	---	---	---	--

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームふじの里 (ふじ棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	『あふれる想いで、あなたに寄り添う』という法人理念の元、利用者様の思いや、希望をを日常の会話から引き出せるよう心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	利用者様の日課を早期に把握して、それに合わせた声掛けにて確認し、本人の自発性を促す支援を実践している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	入浴時や外出時、どの服を着ていくか相談しながら決めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	年間行事の中で、季節の行事食を利用者の要望を取り入れた内容で提供することもあり、食事の準備・片付けなども職員と一緒に楽しく行っている。日常でも食事の準備や片付けは一緒にしている。	毎日の食事は、栄養士が栄養バランスを考えて作成したメニューをもとに、職員が毎食調理している。食材は、近くの卸業者や食料品店から入手しているほか、菜園で育てた野菜や家族、職員提供の野菜なども活用している。月1回は「お楽しみ献立」として、利用者アンケートの食べたいメニューを提供している。毎日のおやつは手作り羊羹、ホットケーキ、ムースなどがある。誕生会には手作りケーキ、正月にはもち料理などの提供を通じ、利用者が食事を楽しいと感じられるように工夫を重ねている。	

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームふじの里 (ふじ棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	栄養士が食事のバランスを考えたメニューを提供し、実施記録の中に日々の食事量や水分摂取量を記録し、そのデータから利用者の状況を把握している。食形態に関しても、利用者様にあわせ提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	食後の口腔ケアを午睡前、就寝前に行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	排泄チェック表に基づき適切な時間に声がけしトイレ誘導を行っている。トイレへ行けない利用者様は時間で確認している。	利用者のうち、布パンツ利用が4名、リハビリパンツにパット併用が13名、おむつが1名であり、既に自立している利用者は6名いる。自立できていない利用者に対しては、排泄チェック表に基づき、利用者の様子も見ながら適切な時間にそと声掛けしてトイレに誘導している。ポータブルトイレの利用者はいない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	下剤の適切な内服と水分摂取並びにレクリエーション等を通して、便秘予防の支援を行っている。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームふじの里 (ふじ棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそうした支援をしている。	施設内のデイサービスの浴室は温泉を使った湯なので、温泉の湯を希望すれば入浴していただく。また、冬至にはゆずを浴槽に入れゆず湯を楽しんでいただいている。普段は午前中が入浴時間となっているが、希望があれば就寝前の入浴もできる。	入浴は2日に1回、毎日午前中を入浴時間としている。デイサービスでは金ヶ崎町の千貫石温泉の温泉水を使っており、利用者の半数程度はそのお風呂を利用している。お風呂を嫌がる利用者に対しては、時間や日を変えたり、清拭だけにして、気持ちがわるのを待つこととしている。入浴は職員と1対1になって職員との話を楽しむ利用者も多い。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	本人の落ち着いた場所にベッドを置いて休んでいた。本人の状況等を配慮しながら、過ごしやすい環境になるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の処方等を個人チャートに綴り、職員が確認している。与薬に関しては確認表を作成し誤薬の無いように務めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	起床時ユニットのカーテンを開ける。洗濯物を置く。好きな踊りを披露する。気候の良い時はドライブで季節を感じる。職員と作品を作る。女性の利用者様で女子会をする。お楽しみおやつなど、楽しめるレクリエーションで気分転換できるよう努めている。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームふじの里 (ふじ棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	春はお花見や新緑ドライブ、つつじ狩り。秋は紅葉ドライブ、天気の良い日のドライブは気分転換を図れるよう利用者様に聞きながら柔軟に対応するよう努めている。また、お墓参りや病院受診などご家族様と外出できる支援をしている。	お花見や新緑ドライブ、紅葉狩りなど季節を楽しむドライブのほか、近くを回るミニドライブなど、できるだけ外出の機会をつくるようにしている。事業所の周囲を散歩したり、車いすで職員と一緒に外出を楽しむ利用者もいる。また、ユニットに囲まれた中庭には小さな畑があり、職員と一緒に植付けから収穫まで外での作業を楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	原則利用者様の金銭所持はなく、ホームで預かり金として管理している。預かり金からホーム内の自動販売機でジュースを選んで購入する方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	本人の希望により随時行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	施設は床暖房、エアコン、空気清浄機を完備し心地よく過ごせるようになっている。ホールには月ごとに利用者様の作品や季節の花を飾り季節感を感じられるよう努めている。	ホールは廊下側が吹き抜けになっており開放感があり、エアコン、床暖房、空気清浄機で一年中過ごしやすく、利用者は日中はホールで過ごすことが多い。壁面には利用者と職員が一緒に作った季節ごとの飾り物や、習字教室の作品などが飾られており、整理整頓が行き届き清潔感のある居心地のよい共用空間となっている。	

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームふじの里 (ふじ棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	座る場所は、趣味が合う同士や、なじみの利用者様同士で楽しく過ごせるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	使い慣れた家具・日用品・思い出の品など持ち込み可能にしている。	エアコン、床暖房、クローゼット、整理棚、洗面台が備え付けられている。利用者は思い出の品や写真、衣装ケースなど使い慣れたものを持ち込み、落ち着ける居室となるようそれぞれ工夫している。居室の入り口に利用者の名前のほかに似顔絵が飾られている居室もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	トイレや居室に名前等の表示をすることで迷わないよう配慮している。		